
たどり着けないイブ

キップル

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

たどり着けないイブ

【コード】

N0839J

【作者名】

キップル

【あらすじ】

書いたのはもう9年前ですね…

2000・12・09 執筆

美沙子、なんだか思い出しちゃったんだよ

俺もまた性懲りもなく別の娘とつき合ってるんだけど

君より13センチも背が低くて、俺のコートの中に入っちゃうんだよ
小さいけど美人、なのかな、よく喋るよ、俺の4.5倍くらい

「具だくさんのスープのおいしいところ」って変な注文で
なんだかこの駅で降りてしまったのさ

狭い道曲がって曲がって曲がってそしたら美沙子、思い出した
ここはイブに君といっしょに来たスープ屋さんだったって

「こんなおいしいの前世でも食べたときない」

彼女はそんなふうにはフーフフだけど俺はもう口の中カラカラで
シェフのおすすめの味もしないのさ、なんだか

君が好きだった君の計算高さが好きだった

間違いは俺が君よりずいぶん長く生きていることだ

彼女が「アイツと寝てもいいの？」って凄むんだ

俺のこと知ってても口説き続けてる若い男のことさ

いいよって言うって機嫌悪くなると面倒臭いから

慌てたお芝居を15秒くらいしてから「ゴメンネ」という筋書き

熱いスープ1回で済んじゃう程度の問題なんだね

それにしてもよくだどり着いたな、一度来ただけのスープ屋に

俺にはもうなんだか、ショッキングな事件なんて起きそうにない

彼女、ちよくちよく手首をカットしてたらしい

今は安いSWATCHで隠してるけどかなり醜い

俺とつき合いだしてからも何回かやってるらしい

でも俺、敢えて聞いたりはしないようにしてる

俺がどんなにしゃれたこと言ったってあの娘はまたやるもん

しかし、君に刺されそうになったとき、あのときは恐かった

君とかナイフが恐いんじゃないかって、美沙子

なんだかもう観念している自分の不甲斐なさが恐かった

「ああ、俺は、ここで、こうやって、死ぬのか」って一部分冷静なのね

結局君は国語辞典にナイフを突き立てた

ナイフは誰かが持ってたけど辞典はまだ使ってる使いづらいけどどうしてなのかは君がいちばんよく知ってるよね

君が好きだった君の恥骨の高さが好きだった

間違いは俺が君よりいつまでも子供だということだ

俺、もう年とっちゃったよ、スープおいしくないもん

彼女が手首切っても見てない振りするじじいになっちまった

俺だってシヨッキングでドラマチックで激辛で甘あまで…

なんだか

美沙ちゃん、なんだか

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0839j/>

たどり着けないイブ

2010年10月20日15時00分発行